

如新会短信 (2011年度-2号)

2012年2月13日発行

大阪市立大学如新会

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学経済学部学務係気付

会長 竹内淳一郎

会長挨拶

寒春の候、恒例の社会人修士論文発表会は、3月24日(土)に開催する運びになりました。多数のご参加をいただきますようお願いいたします。

残念ながら、今年も新院生は1名です。その上、竹内徹夫副会長から辞任の申し出がありました。お会いして事情を聞きましたが、固いご意思なので独断で受理いたしました。本会存亡の危機の歯止めが大きく貢献いただいたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。

思い起こすと、昨年(2011年)の社会人修士論文発表会は、311(東日本大震災)の翌日でした。会長不在などで開催が危ぶまれた夏季シンポジウムは、脇村孝平学科長はじめ先生方のご協力のもと、幹事4名が力をあわせて開催できました。会員以外に、経友会や経友会講座の一般聴講生にも呼びかけたことにより、2001年夏『大阪発：世界に羽ばたくブランドとその企業』(48名)を上回る、51名の参加者がありました。

また、今年から経済学研究科・経済学部 学位授与式と記念パーティに、出原康雄事務局長の助言もあり、案内状をいただきました。学部同窓会と同様に対応してもらえことになりました。

当会の告知のため、前・金井弘之会長が立上げられたホームページの更新は、中島義裕教授、樋上恵美子(2008年度修了)のご尽力により、第1期修了生(1987年度)から23期修了生(2010年度)までの修士論文一覧表(掲載辞退者などを除く79名分、年次、氏名、指導教官、タイトル)および博士論文(7名分、同左)を掲載できました。また、経友会のホームページに同会有田正文副会長のご尽力により「如新会のページ」設けていただきました。

http://www.econ.osaka-cu.ac.jp/gse/J/graduate/.../joshinkai_ronbun.pdf : 如新会 修士論文・博士論文などの一覧表。

<http://keiyukai.info/> : 経友会の「如新会のページ」は、会則、名の由来、2011年度夏季シンポジウム(式次第・レジュメ・出席者名簿・会場風景・記念写真)などが掲載されています。

上記のウェブサイトのアドレスをぜひご覧いただき、お知り合いの方に、社会人選抜入試の受験をお勧めいただけませんか。

入学者の増加のため、脇村学科長は大学院の変革を、この一年以内に対応される覚悟でおられます。皆様方もご協力いただきますようお願いいたします。また、空席になる副会長を、どなたか引き受けていただけませんか。3月24日の総会にご提案したく、自薦他薦でも、ご連絡いただければ幸いです。本会存続の危機は、まだ脱却してきていません。

2011年度夏季シンポジウム大いに盛り上がる

経済学研究科・如新会共催による恒例の夏季シンポジウムが2011年7月30日(土)午後1時、本学の文化交流センター大ホール(大阪駅前第2ビル)において開催された。経済学研究科長の脇村孝平教授を来賓に、シンポジウムテーマ『健康格差と社会経済構造』に関して趣旨説明を佐

藤光教授、講演を福原宏幸教授、瀬戸口明久准教授、松永一朗医学研究科特任講師の三氏が行った。シンポジウムの出席者は脇村学科長、講師をはじめ、如新会（20名）、経友会（11名）、経友会講座一般公開聴講生（4名）、院生・修了生・学部学生・会員友人（8名）が参加。総勢51名の大盛況で、タイムリーなテーマに真摯で活発な質疑応答が繰広げられ盛り上がりを見せた。

シンポジウムに続いておこなわれた如新会総会には20名が出席し、会長代行であった竹内淳一郎氏を会長として承認した。会場を全日空ホテルに移した懇親会にはシンポジウムの出席者のうち22名が参加した。

☆夏季シンポジウム

＜幹事挨拶＞ 幹事代表 竹内淳一郎

「如新会」とは初代会長の中島信一郎氏の命名ですが、いつであろうと一見すれば分かりあえることです。現在、如新会の会長は不在です。かつて約100人を超すメンバーがいました如新会ですが、お亡くなりになった方もおられますし、高齢化によって活動に参加できない方もおられます。さらに、社会人の大学院入学者の減少もありまして、任期3年の会長職の引き受け手が無いのです。社会人の大学院入学者が増えることをよう大学に提案していきたいと思います。私は、鮭が川に戻ってくるように学部卒業後、定年を迎え、大学院へ戻ってきました。こういう形で大学院を目指す人を増やしたいと経友会（経済学OB会）に働き掛けています。本日も経友会の方、経友会講座参加の一般の方も参加いただいています。本日は大変いいテーマです。医学部の先生にもおいでいただいています。たくさんの質問をお願いします。

＜来賓挨拶＞ 経済学研究科長 脇村孝平 教授

昨年、経済学研究科の重点研究のテーマとして「健康格差と都市の社会経済構造」が採択されました。経済学と医学の共同の取り組みです。疫学的にみますと、20世紀は病院中心の医療の時代であったといえます。21世紀は高齢化に伴い、介護・ケアという取り組みが問われています。都市の行政の財政は厳しく、またコミュニティも弱体化しています。今日の参加の皆さんにも現実的であり関心の深いテーマであると思います。社会人の大学院入学者については、高齢化社会における大学院の社会的役割を見極め、ニーズの掘り起こしを図っていきたいと思います。

＜趣旨説明＞ 経済学研究科 佐藤光 教授

「健康格差と都市の社会経済構造」という重点研究のテーマですが、経済学部と医学部が共同で取り組む事は極めて異例なことです。国連がヨーロッパ中心に行った調査で、所得・学歴・職業・地位が上がると罹患率が下がり、寿命が長くなるというデータがあります。大阪は日本でも結核や癌など高い数値が出ています。大阪市大は学問的調査に取り組もうと実態調査の準備中です。そんな中、福島原発問題が起き、自然との共生が見直されています。自然にはいろいろな意味合いがありますが、老いて死ぬことも自然なことです。ヨーロッパ、アメリカ、東洋人と死生観の違いもありますが、延命治療に関しても一考の余地があります。

＜講演1＞ 経済学研究科 福原宏幸 教授

「大阪の社会的不利地域と健康格差」

健康問題は、単に個人の身体的な問題というよりは、社会経済的な諸問題と深く関連している

